

試聴会・訪問記掲載

河口無線メリディアン Model218 試聴報告(2019.3.3)

河口無線に MQA 対応の DAC のメリディアン Model218 が入荷したとの報に接し、[上新電機の MQA 体験試聴会](#)の後、I 氏、M 氏とともに試聴を行ってきました。

<試聴システム>

今回の目的は MQA 対応の DAC のメリディアン Model218 の試聴です

DA コンバーター：メリディアン Model218



プレイヤー：ヘーゲル CDP-4A



アンプ：ラックスマン L-509X



スピーカー：クアドラル TAITAN-9



当日のセッティング

< 試聴の経過 >

最初に上新電機の試聴会でも使われたオクタヴィアレコードのマリンバが河口無線で準備されていたので、それを聴きましたが、上新電機では演出過剰の印象のところ、こちらでは、より自然なマリンバらしい音がしていました。

この後、M氏持参と当方持参の UNIVERSAL MUSIC の下記 MQA-CD を順次聴いていきました。

M氏持参の MQA-CD



当方持参の MQA-CD



M氏持参のMQA-CDでは、アルヘンタのエスパーニャと三角帽子では、エッジが効きすぎず、鈍らず、十分に切れ味の良い音がします。バックハウスのピアノと諏訪内晶子のバイオリンも質感表現が自然で、おそらくはベーゼンドルファーとストラディヴァイェルスであろうと推測ができます。

当方持参のMQA-CDでは、ウーンフィルらしい艶やかなオーケストラと、レクイエムの合唱やソプラノの声の自然さが好ましく再現できます。

ここで、Model 218のデジタル入力部にデジタルアキュライザーを装着して、レクイエムとエスパーニャを聴きましたが、ハーモニーの美しさが向上しました。

<まとめ>

先ほどの上新電機の試聴会と違い、スピーカー以外はさほど高価なものではない機器構成でありながら、音源の選択面からも MQA-CD のポテンシャルを確認できました。Model 218 は、英国の良識ある音づくりの伝統にたがわず、価格を考えると MQA 再生に関して好ましいパフォーマンスを示し、アクセサリやケーブル、電源の手当てにより、さらなる結果をもたらすような予感がしました。機会を改めて、LAN 入力の音も聴いてみたいと思います。

以上